

教科名	数学	科目	数学Ⅰ（内進）	週授業時間	3単位
-----	----	----	---------	-------	-----

1. 教科書および副教材

- 高等学校 数学Ⅰ（数研出版）
- 高等学校 数学Ⅱ（数研出版）
- 4プロセスⅠ+A（数研出版）
- 4プロセスⅡ+B（数研出版）
- リンク数学演習Ⅰ・A（内進進学クラス）
- ジュニア演習 数学Ⅰ・A（内進特進クラス）

2. 授業の目標および内容

1学期前半は「図形と計量」を扱う。新しい記号や概念を多く含む分野なので、授業の導入部分は丁寧にいき、数多くある三角比の性質を丸暗記ではなくしっかりと理解させるよう指導したい。また、正弦定理・余弦定理などの重要定理も多く含んでいるので使用法などを含め確実に定着させる。1学期後半からは数学Ⅱの先取学習として「複素数と方程式」を扱う。虚数という新しい「数」について学び、その性質を理解することを目標とする。また、方程式の解を複素数の範囲まで広げることで2次方程式について理解を深めるとともに、因数定理を用いて3次以上の次数の方程式の解法についても学んでいく。

2.3学期は数学Ⅰ・Aを中心とした総合演習を行う。進学クラスは4月の基礎学力到達度テストを見据えた対策授業を行い、特進クラスは大学入学共通テスト、国公立2次、私立一般の試験を想定した発展的な問題を通して応用力を養っていく。

3. 試験について

	1学期		2学期		3学期
定期試験	一次 5月	二次 7月	一次 10月	二次 12月	期末 3月
学力試験	なし		なし		2月実施

内容・難易度について

- ① 定期試験：試験時間は50分とし、授業で扱った問題の類題を中心として出題する。
- ② 学力試験：試験時間は50分とし、基礎的な内容に加え授業の内容からやや発展させ、応用力を問う問題も出題する。試験範囲は原則として入学当初から学習した事全てとする。

4. 評価の視点

$$1 \cdot 2 \text{学期} : 1 \text{次テスト素点} + 2 \text{次テスト素点} / 2 \pm \alpha$$

※ α は授業態度、提出物等を考慮して決定する。

授業計画

学期	単 元	学 習 内 容	備 考	
1	第 4 章 図形と計量 第 1 節 三角比 第 2 節 三角形への応用 数学Ⅱ 第 2 章 複素数と方程式 第 1 節 複素数と 2 次方程式の解 第 2 節 高次方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角比 ・ 三角比の相互関係 ・ 三角比の拡張 ・ 正弦定理 ・ 余弦定理 ・ 正弦定理と余弦定理の応用 ・ 三角形の面積 ・ 空間図形への応用 ・ 複素数とその計算 ・ 2 次方程式の解 ・ 解と係数の関係 ・ 剰余の定理と因数定理 ・ 高次方程式 		
2	総復習 (数学Ⅰ・A 中心)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数と式 ・ 図形と計量 ・ 集合と命題 ・ 図形の性質 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 次関数 ・ データの分析 ・ 場合の数と確率 など 	リンク 数学演習 Ⅰ・A
3	総復習 (数学Ⅰ・A 中心)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数と式 ・ 図形と計量 ・ 集合と命題 ・ 図形の性質 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 次関数 ・ データの分析 ・ 場合の数と確率 など 	リンク 数学演習 Ⅰ・A